

令和 3 年度
学校評価報告書

四天王寺東高等学校
四天王寺東中学校

目 次

1. めざす学校像	2
2. 中期的目標	2
【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの評価】	3
*自己評価アンケートの結果と分析	
結果	3
分析	4
1 肯定評価（評価1・評価2）による分析	
2 設問ごとの分析と具体的な改善方法	
*学校関係者評価委員会からの評価	7
3. 本年度の取組内容及び自己評価	8
資料	
①令和3年度 自己評価アンケート 集計結果	9
②過去年度との比較資料	10
③集計結果を分析した資料	11

1. めざす学校像

聖徳太子の仏教精神に基づく情操教育の実践及び教科学習・学校行事・クラブ活動を通して、豊かな人間性を備え、知・徳・体すべてに調和のとれた人物を育成します。また、社会ルールや校則を遵守し、探究型教育やICT教育等に積極的に取り組み、粘り強く努力を重ねて学習に励むことにより、希望する進路を実現し、将来日本のリーダーとして活躍できる人間力を備えた人物の育成を目指します。

- 目標
1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。

2. 中期的目標

1. 聖徳太子の和のご精神を涵養し、豊かな情操を備えた人間を育成する。
 1. 生徒会活動が活発に行われている。
 2. 部活動が活発に行われている。
2. 探究活動やICT教育に取り組み、学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。
 1. 家庭学習時間の確保に向けた取り組みが行われている。
 2. 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている。
3. 自己の進路を考え、自己実現を図る進路指導を行う。
 1. 進路説明会は、適切に計画・実施されている。
 2. 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている。
4. 規範意識を高め、調和の取れた人物を育成する。
 1. 遅刻・欠席を少なくさせている。
 2. 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている。
5. 学校運営について
 1. 職員の生徒募集の意識高揚が図られている。
 2. 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している。

【自己評価アンケートの結果と分析・学校関係者評価委員会からの意見】

* 自己評価アンケートの結果と分析（令和4年1月実施）

番号	設 問	結果(%)				番号
		1	2	3	4	
目標1	1 校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	30	59	11	0	1
	2 生徒会活動が活発に行われている	11	66	19	4	2
	3 部活動が活発に行われている	17	70	11	2	3
	4 人権教育が適切に計画・実施されている	10	58	25	6	4
	5 いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	21	62	15	2	5
	6 仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	32	55	11	2	6
目標2	7 教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	32	64	4	0	7
	8 効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	43	47	4	6	8
	9 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	44	46	8	2	9
	10 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	28	64	9	0	10
	11 教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	25	67	8	0	11
	12 学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	9	64	21	6	12
	13 家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	13	70	17	0	13
	14 授業で、探究活動を実践したり、ICT（情報通信技術）を活用している	31	60	8	0	14
	15 クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	26	57	13	4	15
目標3	16 生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	57	40	2	0	16
	17 進路説明会は、適切に計画・実施されている	51	47	2	0	17
	18 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	53	40	6	0	18
	19 実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	44	50	6	0	19
目標4	20 校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	13	60	21	6	20
	21 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	26	55	15	4	21
	22 社会のルールマナーを順守させている	13	64	21	2	22
	23 服装規定を守らせている	13	43	40	4	23
	24 生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	40	55	4	0	24
	25 遅刻・欠席を少なくさせている	6	63	27	4	25
	26 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	19	68	11	2	26
	27 環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	21	62	15	2	27
	28 年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	30	60	9	2	28
学校運営	29 職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	28	57	11	4	29
	30 教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	19	66	13	2	30
	31 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	33	63	4	0	31
	32 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	17	64	19	0	32
	33 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	27	52	21	0	33
	34 防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	38	57	4	0	34
	35 入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	60	38	2	0	35
	36 ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	62	34	4	0	36
	37 個人情報保護の指針が守られ、個人情報が適切に扱われている	53	45	2	0	37
	38 職員の生徒募集の意識高揚が図られている	33	52	13	2	38

* 結果の評価：1（よくあてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（まったくあてはまらない）

分析				
1	1 評価と2 評価による分析（肯定評価）（資料①、②、③参照） 1 評価と2 評価のパーセントの合計は、平均で86.1%であり、昨年度の81.4%からやや上昇した。70%を超える高い評価を得た項目は35項目で、昨年度の29項目よりも6項目増加した。また、70%以下の改善の余地がある項目は昨年度の9項目から3項目へと減少した。全体的には改善傾向にはある。しかしながら、生徒数の増加に伴い新たな問題も起こる可能性があるため、丁寧な対応をする必要がある。			
	2 設問ごとの分析と具体的な改善方法			
目標1	番号	分析	具体的な改善方法	番号
	1	コロナ禍でありながら各学年また担当者が各行事催行に向け熟考を重ね、実施したことが評価されたものと思われる。しかし現状をみると、例えば修学旅行の場合、当初の目的地を幾度も変更したり、または宿泊数の短縮等の制限を設けざるを得ない状況が数値の伸び悩みの原因と考えられる。	校外活動を実施ありきで考えているので、コロナの環境が好転すれば問題ないと思われる。	1
	2	コロナ禍で文化祭を含め生徒会活動を表立って行うことが困難だったことを考えると妥当な数値であると思われる。一方、数値上昇の要因としては、生徒会役員が文化祭の抽選会や入試説明会などで活躍する姿を他の生徒たちに見てもらえたこと、さらにはエコキャップ運動や193募金の実施が考えられる。	各行事等においてもっと生徒会が主体となり活躍できる場面を増やしたい。特に文化祭は、毎年教員主体のため、生徒にある程度の権限を渡し、教員は見守るというスタンスで行ってはどうかと考える。また、生徒会を中心に地域の方々と交流できる機会も作っていかねばと考える。（地元での学校の評判は大事だと思うので）	2
	3	コロナ禍で活動自粛等があったにもかかわらず、そこまで低い数値ではなかったのがちょっと不思議な感じがする。体育館での軽音楽部やダンス部等の発表やクラス主宰の演劇発表を行った結果だと思われる。	生徒の部活動加入率を増やすためには、外部コーチをお願いするというのもひとつの方法だと考える。	3
	4	十分できているとは言えない。	ロングホームルームが礼拝や行事に使われることが多く、実施が難しかった。年度の初めから具体的な人権教育の指導日程の決定が必要だと思われる。	4
	5	適切に行われていると思われる。	徐々にではあるが、問題発生時には、担任、学年主任、人権教育係、部長、教頭、校長と組織的に会議を持ち、問題解決するしくみが機能しつつあると思われる。	5
	6	自己評価は令和2年度81.4%から令和3年度87.5%にデータ上では改善が見られる。仏教科、仏教行事だけでなく学校全体の取り組みや各先生方のご協力による改善であると思われる。	生徒の仏教教育、仏教行事への理解の浸透や、時間短縮とはいえ、コロナ禍での礼拝の実施やリモートでの修行の是非などのご意見もあったので検討し、より良いものとなるよう研鑽に努めたい。	6
	7	高校2年生までが新しいコース制になり、より理解しやすい教育課程となったのではないかと。	高校で新指導要領が始まるので、今後の動きを見て改善点を探していく。	7
	8	非常勤講師が多く出勤日の偏りがあり作成に制約が多い中で、評価1と2でほぼ90%を保っているため、概ね良くできていると考えられる。その一方で、教員の時間割条件が年々厳しくなる状況により、必ずしも生徒にとって効率的に学習効果を生み出せる時間割編成になっているとは言えない部分もある。	昨年度より組みやすくなると思うので、より「生徒のための時間割」を考えて作成できると考える。教員を少し増員して個人の持ち時間を1～2時間程度減らすことができれば、時間割編成で自由度が増すことが期待できる。	8
	9	少し下降しているが、今年度もコロナの関係で休業等で授業が実施できなかったことが原因と思われる。コロナが落ち着くまで長期的に見ていくことが必要と感じる。また、教科に委ねられている部分が多いと思うので、各教科で考えてもらうことが必要である。	新学習指導要領を踏まえて、観点別評価を盛り込んだシラバスの作成などが必要である。年間の教育計画は立てられているが、進捗状況など各教員が情報を共有する機会が少なく、担当者任せになっているという問題を解決する必要がある。	9
	10	67.4%から91.5%へ大きく向上した。ICT係主催での教員研修や、それに連動した研究授業が評価に繋がったと思う。さらに、コロナ禍でオンライン授業や中学生にもiPadを持たせたことが授業の創意工夫に繋がった。	他教科であっても参考になる授業展開は多くあると思うので、今後も教科を越えた授業展開の議論の場があると良いと思う。ただ、ICT研修では、実施時間が長く感じたため、もう少しコンパクトに（例：40分を2回）効率よく出来ればと思った。	10
目標2	11	ICTに関わる教科研修並びに授業公開を行うことにより、各教科の担当教員同士のコミュニケーションが増え充実した授業研究がすすめられた。	新しい教員が増えていく中で、授業に関わる教科内の協力体制をより充実させていく必要がある。また、教科内のみならず、他教科間での情報交換等を今後どうしていくべきか考える必要がある。	11
	12	コロナ禍ということもあり、遅進者に対する補講や受験対策の講座などが例年と比べ少なかったことから、評価が下がっていると思われる。	各学年の進学係を中心に、学年内での学習面において生徒のフォロー体制を検討していくことが良いのではないかと考える。HRの時間を利用し、学習・進路に対する意識を高める必要がある。	12
	13	昨年度よりも肯定評価が5%高くなった。概ね良いと評価されている。	適切なロイロノートでの配信課題や宿題・小テストを教員から積極的に促すべきである。また、時間の多さがすべてではないが、何らかの形で「家庭学習時間」の競争などを企画しても良いのではないかと考える。	13
	14	新型コロナウイルス感染拡大により、オンライン授業の展開など様々な工夫が求められた。また、ICTに関わる教科研修を通じて、タブレット活用の情報共有ができた。	ICTに関わる研究授業をより早い時期に行って、学校全体での意識を高める必要がある。また、教員側の活用の仕方だけでなく、生徒への活用のさせ方を充実させていく施策も各教科だけでなく、教員全体で議論していく必要がある。教科・教員により、ICTの利用率や探究活動の実施は大きく差がでていると思う。その点を考える必要があるのではないかと感じた。	14
	15	現高校1年生から、コース在籍・変更について成績による制限が加えられることになり、それが、教員内で評価されているのだと思う。	必要な見直し等をしつつ、この在り方は継続すべきである。また、英検やGTEC・数検・漢検等の資格取得対策を目的とした講習も生徒の意識向上に繋がると考える。	15
目標3	16	肯定評価でほぼ90%以上が続き、93%から98%に上昇しているため、現状で概ね良いと評価されている。	教室後方や廊下に掲示してある進学に関してのポスターやパンフレットは、常に新しい情報であることを確認しておく必要がある。	16
	17	肯定評価が、ほぼ98%が保たれているので、概ね良いと評価されている。	卒業生やIBUの学生からの実体験やアドバイスを聞くことのできる機会は、在校生の興味を誘うと思われる。	17

目標3	18	肯定評価で93%以上が保たれており、各担任の尽力により懇談・面談等が行われており、概ね良いと評価されている。	現状を継続しつつ、丁寧な生徒への対応を継続していくべきである。	18
	19	肯定評価が93%以上に保たれており、概ね良いと評価されていると考えられる。	模試の利用は業者のプログラムなどで細かく分析できるので、それを適切な時期に的確に伝える努力を怠らないようにする。	19
目標4	20	各先生方の問題行動未然防止意識が高まり評価が上がったものと考ええる。また日々生徒と接する中、先生方が生徒達の話をしっかりとしている結果であると思われる。生徒達が教員と話しやすい空気を作れているのではないかと考える。	生徒指導を他人事のように考えている先生方の意識の改革を促す必要があるかと考える。中学校は小規模で、教員間の意思疎通もしやすい。今後は高校の指導が大変になってくる。各担任が学年団と情報の共有がしやすいよう、生徒指導の先生方が自主的に学年主任や学年の教員に働きかけていくような仕組みを考えていきたい。	20
	21	問題行動が起こった際に、学年の複数名の先生方で連携し、対応されている様子が数値の上昇につながったのではないかと考える。また、生徒から受けた相談や指導に関わることを学年、または校務分掌の教員間で共有することに努めていることも数値上昇の原因と考える。	学年主任、学年生指、該当する担任が連携を取り、保護者への対応や、生徒指導部長・管理職への報告といった流れが定着されてきていると思う。今後も学年主任を中心に情報を共有し、問題に対し組織的に対応していきたい。	21
	22	各先生方のルールを順守させる意識の高まりが、評価の上昇につながったのではないかと考える。	今後も様々な情報を先生方に発信し、朝礼やホームルームで生徒に伝えてもらい、四天王寺東の生徒としてさらに自分の通う学校に誇りと愛着を持ってもらえるように働きかけたい。	22
	23	服装に関しては、生徒数も増え、一部の生徒ではあるが、服装が乱れている生徒が目立つようになったこともある。また、「注意しても無駄」と考えている教員が多い。生徒に注意しても「他の先生には何も言われない」などの返答があり、正直注意するのがどうなのかと考える瞬間もある。同様に感じている教員も多いと聞いているので、このような低い結果になったものと考ええる。	まず、4月初めにネクタイ・リボンの正しい着用指導と、女子のスカート丈の指導を徹底したい。校門前の指導においても、声かけのみならず「その場で服装を正させる」ということを事前に生徒に知らせ、実際にそのようにすることを徹底する。声をかけても正さない場合に生徒指導としてどう動くのかを決めていきたい。	23
	24	何か心配事、気になることがあれば保護者と密に連絡を取っている姿勢が評価に繋がったものと考ええる。	現状通り、保護者と連絡を密にし信頼関係を築きたい。	24
	25	コロナ過で遅刻や欠席の指導を徹底するのが難しい状況ではあるが、特に何の理由もない遅刻、コロナ禍を良いことに欠席している生徒もいる状態がこの数値になったのではと考える。	遅刻が多い生徒については、まず保護者に連絡をするなど減らす方策を考えたい。現状は、学期末の教員会議で「遅刻・欠席」回数が発表されるのみで、毎日の業務に「遅刻回数をカウントして、改善を図る」といものは含まれていない。また、チャイムが鳴り終わった後でも遅刻扱いにしていない教員も多いと聞く。これに関しては、4月当初の会議で徹底するように促したい。どうしても改善が見込めない場合は、ペナルティを課すことも考えたい。	25
	26	すれ違った際に挨拶をすると、しっかりと返してくれる生徒も増えてきた。また特定の生徒以外はしっかりと時間を守って行動しているように思う。それらがこの数値として表れたものと考ええる。	1年間通じて風紀委員会の挨拶運動が良かったと思うので、来年度も引き続き実施したい。	26
目標4	27	清掃用具等の入荷が、従来よりも速やかに行われるようになったことが、数値の向上につながっていると思われる。	清掃用品の設置・充足については、まだ不十分なところもあるので、定期的な点検を行って充足していけるとよいと考える。ただ、清掃状況としては決して良好とは言えない。ゴミの始末の仕方など、改善できると良いと思う（具体的には、クラスのゴミの捨て方である。来年度も生徒数・クラス数が増えることを考えると、各階のゴミ箱に捨てるという今の在り方は見直すべき。用務員さんの負担を考慮すべきであると思う。）	27
	28	1%程度の低下が認められるため、引き続き健康観察や健康の保持増進を促す活動が必要であると考ええる。	引き続き、保健委員会による啓発活動や、掲示板や保健だよりを通じて保健室から情報発信をしていきたい。	28
学校運営	29	A+Bの肯定評価が74%から85%に上がり、しっかりと機能していると思われる。	教科、分掌の会議の時間の設定を今後も可能な限りしていく。	29
	30	A+Bの肯定評価が67%から85%に上がり、教員の相互理解と連携がうまくなされてきている。	今後も、和の精神の実践を促し、挨拶から始まり、自分の意見が言え、また、人の意見も尊重する雰囲気作りをしていく。	30
	31	A+Bの肯定評価が96%と昨年度に引き続きよい結果となった。生徒募集において、多数の受験者と入学者をもたらしていると思われる。	今後も生徒募集には欠かせないものであるため、最新の情報を頻繁に発信していく。	31
	32	A+Bの肯定評価が58%から81%へと大きく上がった。教科や分掌での内部の研修や情報共有がうまく機能していると思われる。	研修に参加し、そこで手に入れた内容や情報を教科に分掌に還元していくように促していく。	32
	33	A+Bの肯定評価が79%と少し上がった。コロナ禍の中、オンラインでの参加が増加した。	今後も、オンラインでの研修等が増えていくだろうが、可能な限り参加の機会を増やし、教科や分掌に還元してもらう。	33
	34	A+Bの肯定評価が96%と昨年度に引き続きよい結果となった。意識の高揚が図られている。	コロナ禍でなかなか実際の訓練ができないが、講話やビデオ等いろいろな方法で防災の意識を今以上に高めていきたい。	34
	35	高校入試説明会でも個別相談などを通して各個人に対応できた結果がデータに現れたのではないかと。また説明会でも、十分説明を聞いて分かったため個別相談をキャンセルする、という人がいました。そこから見ても、説明会は十分情報が発信できていると思われる。	中学入試に向けて人が集まるようなことをもっと考えていきたい。また、どのイベントに参加した人が入学しているのかなど、イベントの重要性なども数値化していくと良いと思う。四天王寺小学校の先生方への情報発信に努める。	35
	36	学校ホームページを見ると、きちんとバナーなどによって入試関連の日程などが表示されているので外部の方が見てもすぐに情報が見つけれられるのではないかと考えた。また、資料請求フォームもすぐに発見できるので毎日資料請求があり、受験生の視点から見ても見やすく、かつすぐに情報が発見しやすいのではないと思う。	このまま現状を維持しつつ、変化があればすぐに対応できるように心がけたい。	36

学校運営	37	A+Bの肯定評価が約98%と昨年度に引き続きよい結果となった。常日頃の注意が功を奏していると思う。	まだまだ、個人情報の保護の意識の低さを感じるところがあり、今後もその意識を徹底していきたい。	37
	38	今年度も、学校説明会や入試説明会でたくさんの教員に協力してもらい、職員の意識の高揚が図られ、A+Bの肯定評価が85%と昨年度を上回った。	生徒募集の大切さの意識が職員に浸透している。学校説明会や入試説明会のみならず、すべてのことが生徒募集につながっているという意識も大切である。たくさんの生徒が来てくれるいい学校にするために、日々のあらゆることに全力で取り組んでいきたい。	38

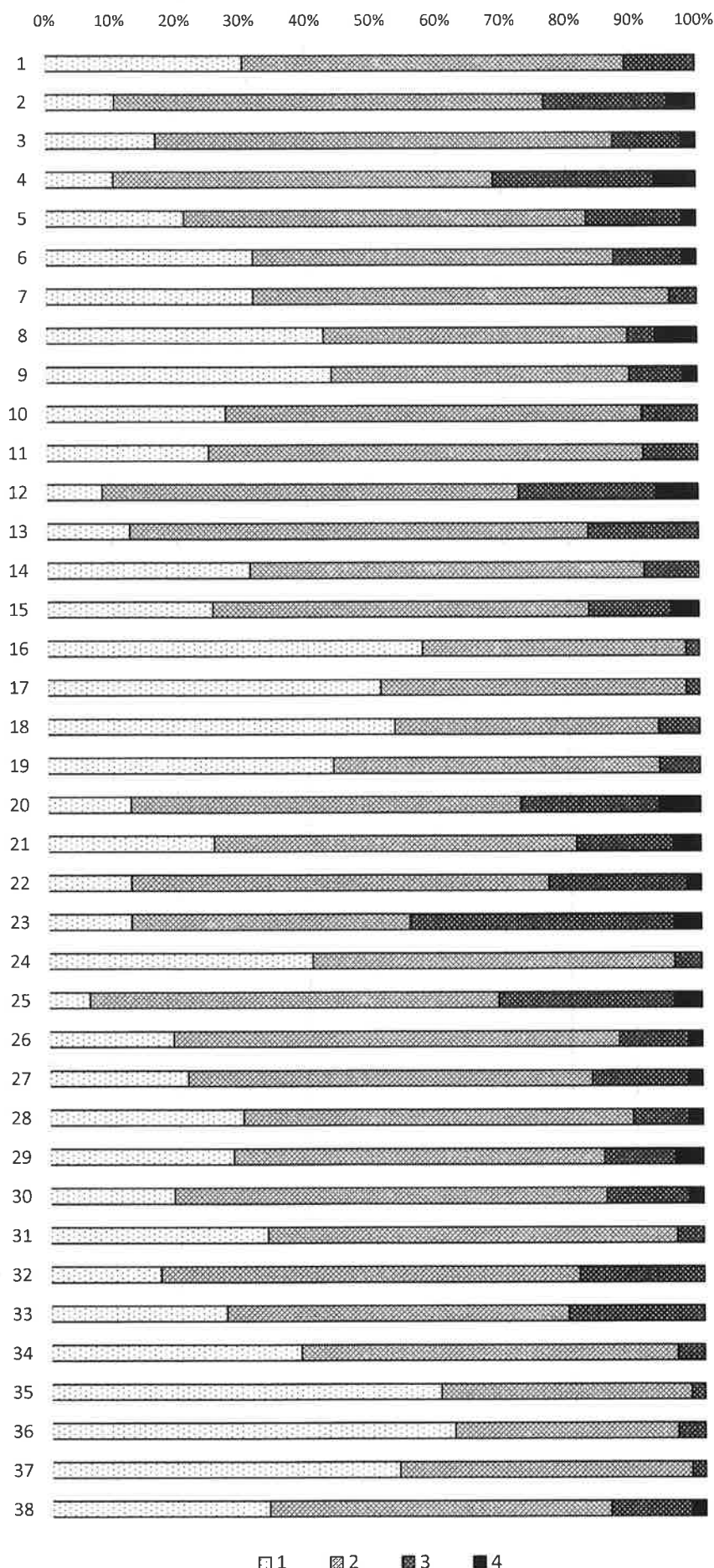
*学校関係者評価委員会からの評価	
目標1	1 コメントなし。
	2 生徒の自主性をはかる意味でも、生徒会活動を活発にできるように取り組んでほしい。
	3 評価が前年度に比べて落ちているのはコロナのせいで仕方がない。
	4 評価が落ちている理由がわかりませんが、人権教育は人間形成の上で大事な部分なので適切に行われることを希望する。
	5 コメントなし。
	6 コメントなし。
目標2	7 10 先生方等の取り組みのおかげで前年に比べ概ね評価が上がっている。
	11 先生方等の取り組みのおかげで前年に比べ概ね評価が上がっている。コロナ禍の中、難しいところもあるが、教員のスキルアップはぜひ取り組みを進めてほしい。
	12 評価が前年より落ちているのが少し気になる。
	13 15 先生方等の取り組みのおかげで前年に比べ概ね評価が上がっている。
目標3	16 19 このコロナ禍にあって評価が上がっているのは保護者としてうれしい。現状を維持してほしい。
目標4	20 22 評価が上がっているのは先生方の努力のおかげである。生徒指導は人間形成の上で大切な部分なので、より一層の向上を希望する。
	23 服装の乱れは心の乱れということもあるので徹底して頂きたい。評価が低く、家庭への協力依頼も含め、指導方法を今一度、見直してほしい。
	24 評価が上がっているのは先生方の努力のおかげである。生徒指導は人間形成の上で大切な部分なので、より一層の向上を希望する。
	25 評価が上がっているのは先生方の努力のおかげである。生徒指導は人間形成の上で大切な部分なので、より一層の向上を希望する。評価が低く、家庭への協力依頼も含め、指導方法を今一度、見直してほしい。
	26 評価が上がっているのは先生方の努力のおかげである。生徒指導は人間形成の上で大切な部分なので、より一層の向上を希望する。
	27 評価が上がっているのは先生方の努力のおかげである。生徒指導は人間形成の上で大切な部分なので、より一層の向上を希望する。経年劣化ではなく、開校当初よりも明らかに日常の清掃が行き届いていない。
	28 評価が上がっているのは先生方の努力のおかげである。生徒指導は人間形成の上で大切な部分なので、より一層の向上を希望する。
学校運営	29 31 評価が上がっているので、教職員様の努力のたまものである。保護者として安心している。
	32 評価が上がっているので、教職員様の努力のたまものである。保護者として安心している。生徒数の増加に伴い、業務内容も増え忙しいと思うが、教員間での情報共有は、便利なツールもあるので、何とか工夫して進めてほしい。
	33 38 評価が上がっているので、教職員様の努力のたまものである。保護者として安心している。

3. 本年度の取組内容及び自己評価				
中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
2 探究活動やICT教育に学習意欲の高揚と学力の向上を目指す。	昨年度の重点目標として取り組んだが、十分な評価が得られなかった「公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている」を今年度も重点目標として継続する。	ア. 公開授業として教員相互の授業参観を行う。 イ. 参観期間を設定し、常勤、非常勤にかかわらず、全教員が実施する。 ウ. 参観者の意見・感想を授業担当者に伝え、授業改善に役立てる。 エ. 昨年度は参観期間が短かったので、今年度は1学期と2学期に、それぞれ参観期間を設ける。 オ. オンライン授業を効果的に実施するためのICT研修を実施する。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (肯定評価80%以上) ・教員取組アンケートも参考にする。	ア. イ. 1学期と2学期に教員参観授業期間を設けた。 ウ. 参観後には参観レポートを書き、提出とした。結果、ほぼ全ての先生方の参観が実施された。 エ. 1学期は参観週間を2週間としたが、コロナ禍ということもあるので、2学期は1か月以上の期間を設定した。 オ. オンライン授業の研修会をICT係を中心として常勤・専任を対象に2学期に1回実施した。また、その研修成果を発表する機会を設け、各教科の代表による研究授業も実施した。 自己評価アンケートの結果は昨年度よりも24.1%も肯定評価が上昇し91.5%となり評価指標を上回った。また、教員取組アンケートの結果から、教員参観授業への参加率は95.2%、また、オンライン研修後の授業発表者、または参観者としての参加率は、78%であった。 ■公開授業、ICT研修、研究授業の実施が予定通り行われ、本校の教員の教科指導力向上とリモート授業における技術向上にも取り組めたと評価できる。(○)
	4 規範意識を高め調和の取れた人物を育成する。	ア. 毎朝登校及び朝礼時に、教員から積極的に挨拶、声掛けを行うとともに、生徒の服装も確認し、規定違反があればすぐに直させることを教員間で徹底する。 イ. 挨拶強調月間には毎朝校門に風紀委員が輪番で立ち、自ら率先して挨拶することにより、挨拶が普通に行える環境を作る。 ウ. 規範意識高揚の為、時間を守れなかったり、校外での校則違反等具体的な事案が発生した場合は、クラスや学年で集会等を持ち、正すよう直接訴える。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (肯定評価80%以上) ・教員取組アンケートも参考にする。	ア. 取組アンケートの結果について、挨拶に関しては「できた」と「ある程度できた」の肯定評価は97.7%となった。また、服装については、「できた」24.5%、「ある程度できた」64.5%となり、肯定評価の合計は89%であった。 イ. 風紀委員が輪番で朝に校門に立ち、挨拶を実践できた。 ウ. 取組アンケート結果から、「できた」48.7%、「ある程度できた」41.0%で、肯定評価の合計は、89.7%となった。 教員自己評価アンケートの結果は、項目26の挨拶については、昨年度より肯定評価が12.8%上昇し、87.2%となり、評価指標を越えた。しかしながら、項目23の服装に関しては、昨年度より肯定評価が7.5%下降し、55.3%となった。 ■挨拶に関しては学校全体で改善したと見られる。(○)しかし、服装についてはまだ問題があると思われる。(△)
	5 学校運営について	ア. 各教科・係に関する研修・研究の実施案内の情報が共有する。 イ. 各教科・係で研修に参加するしない、及び、適切な参加人数を検討する。 ウ. 実施後、教科は教科会議で、係は係内及び必要ならば教員会議で情報を共有する。	・教員自己評価アンケートのパーセント。 (肯定評価80%以上) ・教員取組アンケートも参考にする。	取組アンケートから、まず令和3年度に研修会・研究会に参加した教員は、71.1%であった。 ア～ウ. 取組アンケートで、研修会・研究会に参加した教員において、「情報共有はできましたか」と問いかけた。結果は、「できた」43.2%、「ある程度できた」29.7%で、肯定評価が72.9%となった。 教員自己評価アンケートの肯定評価は、80.9%で、昨年よりも22.8%上昇している。評価指標を上回る結果である。 ■コロナ禍で、実際に参加する研修会などではなくオンラインのものも多くなったが、それにも十分対応し、情報共有が実施されていると評価できる。(○)

令和3年度 自己評価アンケート 集計結果

資料①

設問	1	2	3	4
1	14	27	5	0
2	5	31	9	2
3	8	33	5	1
4	5	28	12	3
5	10	29	7	1
6	15	26	5	1
7	15	30	2	0
8	20	22	2	3
9	21	22	4	1
10	13	30	4	0
11	12	32	4	0
12	4	30	10	3
13	6	33	8	0
14	15	29	4	0
15	12	27	6	2
16	27	19	1	0
17	24	22	1	0
18	25	19	3	0
19	21	24	3	0
20	6	28	10	3
21	12	26	7	2
22	6	30	10	1
23	6	20	19	2
24	19	26	2	0
25	3	30	13	2
26	9	32	5	1
27	10	29	7	1
28	14	28	4	1
29	13	26	5	2
30	9	31	6	1
31	16	30	2	0
32	8	30	9	0
33	13	25	10	0
34	18	27	2	0
35	28	18	1	0
36	29	16	2	0
37	25	21	1	0
38	16	25	6	1



*各設問に対しての、1～4の評価をした人数の一覧。
 *評価：1（よくあてはまる）、2（ややあてはまる）、3（あまりあてはまらない）、4（まったくあてはまらない）

評価1 + 評価2の推移 と 過去年度との比較

資料②

表①は

1 + 2 (%表示)

になります。

①

設問	R1	R2	R3	R4	R5
1	84.6	88.4	89.1		
2	71.7	69.8	76.6		
3	69.2	90.7	87.2		
4	46.1	72.1	68.8		
5	74.3	79.1	83.0		
6	84.6	81.4	87.2		
7	69.2	86.0	95.7		
8	76.9	93.0	89.4		
9	84.6	95.3	89.6		
10	48.8	67.4	91.5		
11	71.8	88.4	91.7		
12	71.7	79.1	72.3		
13	48.7	76.7	83.0		
14	92.4	83.7	91.7		
15	64.1	74.4	83.0		
16	84.6	93.0	97.9		
17	84.6	97.7	97.9		
18	94.8	97.7	93.6		
19	89.5	95.3	93.8		
20	64.1	65.1	72.3		
21	64.1	74.4	80.9		
22	66.7	67.4	76.6		
23	64.1	62.8	55.3		
24	92.4	97.7	95.7		
25	61.6	65.1	68.8		
26	56.4	74.4	87.2		
27	74.3	65.1	83.0		
28	74.3	90.7	89.4		
29	76.9	74.4	84.8		
30	66.7	67.4	85.1		
31	76.9	93.0	95.8		
32	51.3	58.1	80.9		
33	56.4	74.4	79.2		
34	89.7	88.4	95.7		
35	97.5	93.0	97.9		
36	94.8	95.3	95.7		
37	92.3	95.3	97.9		
38	74.4	81.4	85.4		

平均	73.9	81.4	86.1	#DIV/0!	#DIV/0!
----	------	------	------	---------	---------

設問内容は別紙を参照してください。

表②は

前年度からの増減%

になります。

②

設問	R2-R1	R3-R2	R4-R3	R5-R4
1	3.8	0.7		
2	-1.9	6.8		
3	21.5	-3.5		
4	26.0	-3.3		
5	4.8	3.9		
6	-3.2	5.8		
7	16.8	9.7		
8	16.1	-3.6		
9	10.7	-5.7		
10	18.6	24.1		
11	16.6	3.3		
12	7.4	-6.8		
13	28.0	6.3		
14	-8.7	8.0		
15	10.3	8.6		
16	8.4	4.9		
17	13.1	0.2		
18	2.9	-4.1		
19	5.8	-1.5		
20	1.0	7.2		
21	10.3	6.5		
22	0.7	9.2		
23	-1.3	-7.5		
24	5.3	-2.0		
25	3.5	3.7		
26	18.0	12.8		
27	-9.2	17.9		
28	16.4	-1.3		
29	-2.5	10.4		
30	0.7	17.7		
31	16.1	2.8		
32	6.8	22.8		
33	18.0	4.8		
34	-1.3	7.3		
35	-4.5	4.9		
36	0.5	0.4		
37	3.0	2.6		
38	7.0	4.0		

平均	7.5	4.7	#DIV/0!	#DIV/0!
----	-----	-----	---------	---------

資料③

番号	設 問	評価 1 + 評価 2	
		%表示	
		令和 3年度	令和 2年度
目標 1	1 校外活動(修学旅行・校外学習・スキー学舎等)が適切に計画・実施されている	89.1	88.4
	2 生徒会活動が活発に行われている	76.6	69.8
	3 部活動が活発に行われている	87.2	90.7
	4 人権教育が適切に計画・実施されている	68.8	72.1
	5 いじめに対する基本方針に沿い、その取組が適切に実施されている	83.0	79.1
	6 仏教教育・仏教行事が適切に計画・実施されている	87.2	81.4
目標 2	7 教育課程は学習指導要領に沿い、かつ生徒や学校の実態等を踏まえたものになっている	95.7	86.0
	8 効果的で円滑な学習活動を進めるために適切な時間割を編成している	89.4	93.0
	9 年間を通じた教育計画を各教科別に立てている	89.6	95.3
	10 公開授業や研究授業など指導の内容・方法の工夫改善に向けた取り組みが、学校全体で行われている	91.5	67.4
	11 教科内で、授業内容の改善・向上に向けた話し合いを行っている	91.7	88.4
	12 学習状況に応じて生徒を支援する体制が整っている	72.3	79.1
	13 家庭学習時間の確保に向けた取組を行っている	83.0	76.7
	14 授業で、探究活動を実践したり、ICT(情報通信技術)を活用している	91.7	83.7
目標 3	15 クラス編成や講習など進路実現に向けた学力向上策が充実している	83.0	74.4
	16 生徒の進路選択に役立つように状況に応じた必要な情報を提供している	97.9	93.0
	17 進路説明会は、適切に計画・実施されている	97.9	97.7
	18 定期的な懇談・面談などを通じて適切な進路指導がなされている	93.6	97.7
	19 実力考査・外部模試等を進路指導に適切に活用している	93.8	95.3
目標 4	20 校内外の指導等、問題行動を未然に防ぐ教育を適切に行っている	72.3	65.1
	21 生徒の問題に対して情報を共有し、組織的に対応できている	80.9	74.4
	22 社会のルールマナーを順守させている	76.6	67.4
	23 服装規定を守らせている	55.3	62.8
	24 生徒への指導について、保護者への報告が適切になされている	95.7	97.7
	25 遅刻・欠席を少なくさせている	68.8	65.1
	26 挨拶をすることや時間を守る指導などを通して、基本的な生活習慣の確立に努めている	87.2	74.4
	27 環境美化や清掃に対する意識の向上を図っている	83.0	65.1
	28 年間を通して生徒自らに健康観察や健康の保持増進できる能力を養わせている	89.4	90.7
学校運営	29 職員会議をはじめ各種会議が有効かつ効率的に機能している	84.8	74.4
	30 教員間・教科間の相互理解がなされ、連携して教育活動が行われている	85.1	67.4
	31 学校のホームページを活用し、教育活動や生徒の学校生活について情報公開している	95.8	93.0
	32 研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制がある	80.9	58.1
	33 教員が計画的に校外研修を受ける体制が整っている	79.2	74.4
	34 防災訓練の実施等、防災に対する意識の高揚を図っている	95.7	88.4
	35 入試説明会などを通して、情報の発信が適切に計画・実施されている	97.9	93.0
	36 ホームページで入試関連行事などの情報発信が適切に計画・実施されている	95.7	95.3
	37 個人情報保護の指針が守られ、個人情報適切に扱われている	97.9	95.3
	38 職員の生徒募集の意識高揚が図られている	85.4	81.4

表の見方

数字 表示は
1+2 で70%未満

を表します。
改善の余地がある項目
になります。

令和3年度 学校評価
令和4年7月1日 発行

発行責任者 学校法人 四天王寺学園

四天王寺東高校

四天王寺東中学校

校長 柏井 誠一

監修 四天王寺東高等学校

四天王寺東中学校

教頭 森 隆

編集 学校評価検討委員会

委員長 近藤 哲也

委員 中山 栄治 浮邊 浩一郎 綾野 慎治